

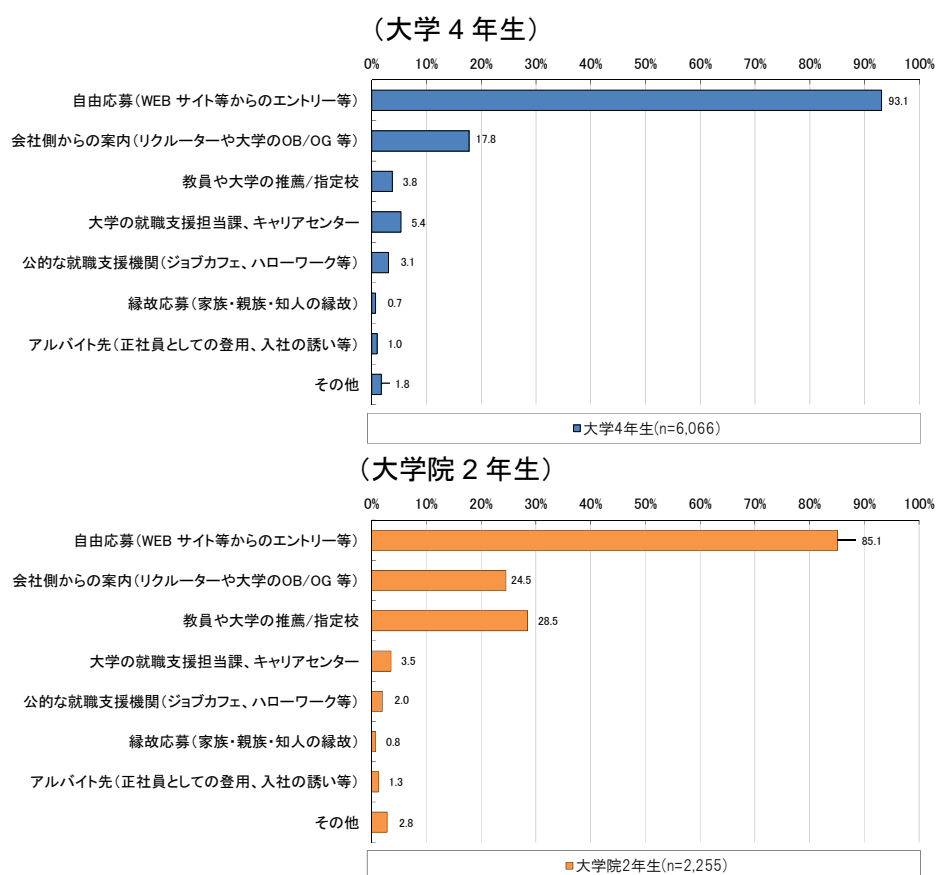
## 第6章 就職予定の企業への入職経路別の集計

### ①入職経路に関する回答状況

どのような経路で採用試験・面接等を受けたかについての回答をみると、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募（WEB サイト等からのエントリー等）」の割合が最も高いことは共通しているが、「教員や大学の推薦／指定校」の回答割合は大学4年生が3.8%であるのに対し、大学院2年生は28.5%と高くなっている（図表 6-1-1）。

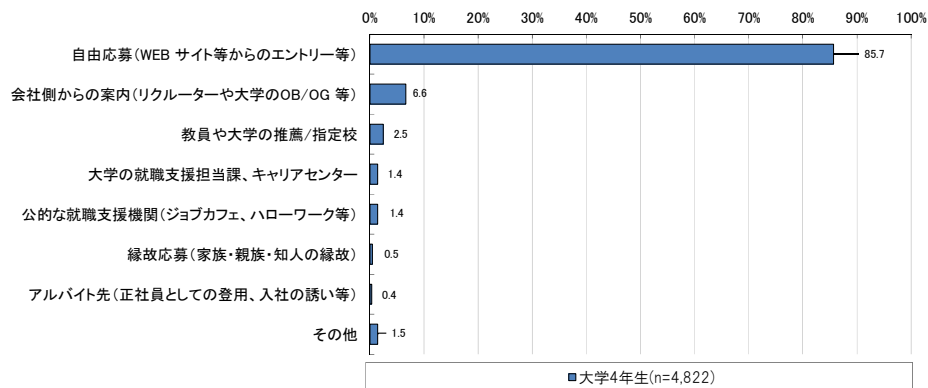
また、内々定を受けた者に関して、就職予定の企業についてどのような経路で採用試験・面接等を受けたかをみると<sup>59</sup>、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募（WEB サイト等からのエントリー等）」の回答割合が最も高く、大学4年生で約9割、大学院2年生では約6割となっている（図表 6-1-2）。「教員や大学の推薦／指定校」の回答割合は、大学4年生の2.5%に対して、大学院2年生は22.2%と高くなっており、さらにこれを文系・理系別にみると、特に大学院2年生の理系の学生で30.6%と高くなっている（図表 6-1-3）。

図表 6-1-1 どのような経路で採用試験・面接等を受けたか（複数回答）

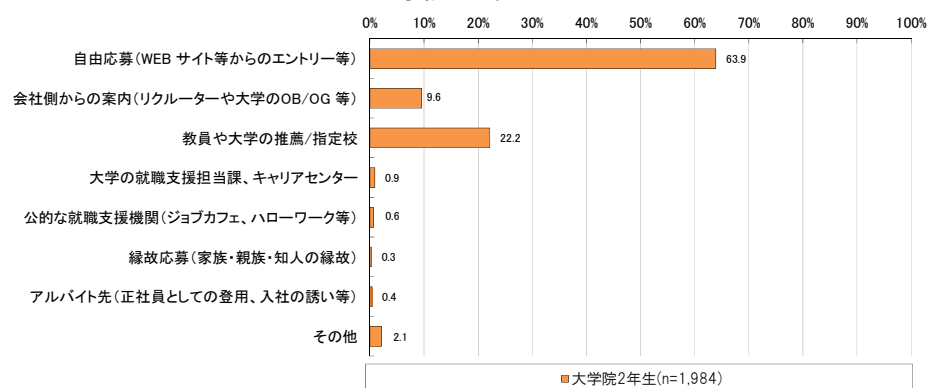


<sup>59</sup> 図表 6-1-1 に掲載した集計結果は、どのような経路で採用試験・面接等を受けたかについて該当するものをすべて回答いただいたものであるのに対し、図表 6-1-2 に掲載した集計結果は、就職予定の企業について、選択肢よりひとつのみ回答する方式によるものである。なお、第6章における図表 6-2-1 以降の集計は、就職予定の企業の入職経路に関する回答を基に分類して行ったものである。

図表 6-1-2 就職予定の企業についてどのような経路で採用試験・面接等を受けたか  
(大学4年生)

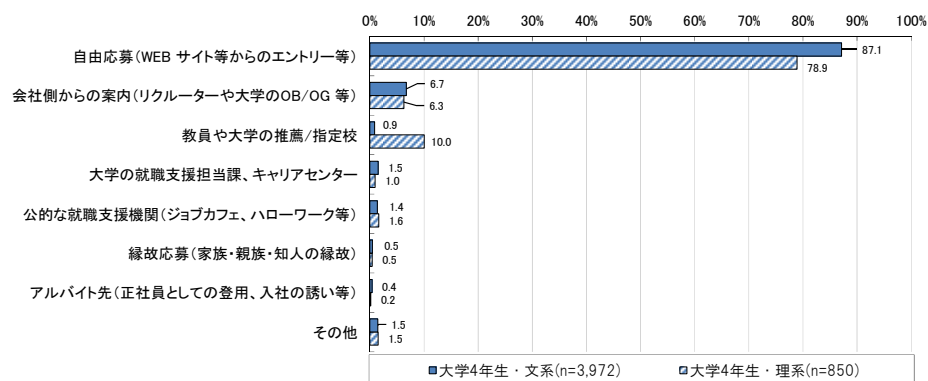


(大学院2年生)

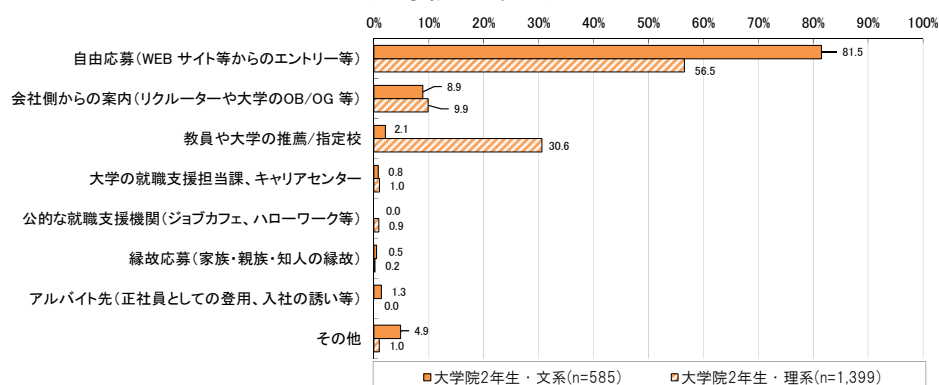


図表 6-1-3 文系理系別、就職予定の企業についてどのような経路で採用試験・面接等を受けたか

(大学4年生)



(大学院2年生)

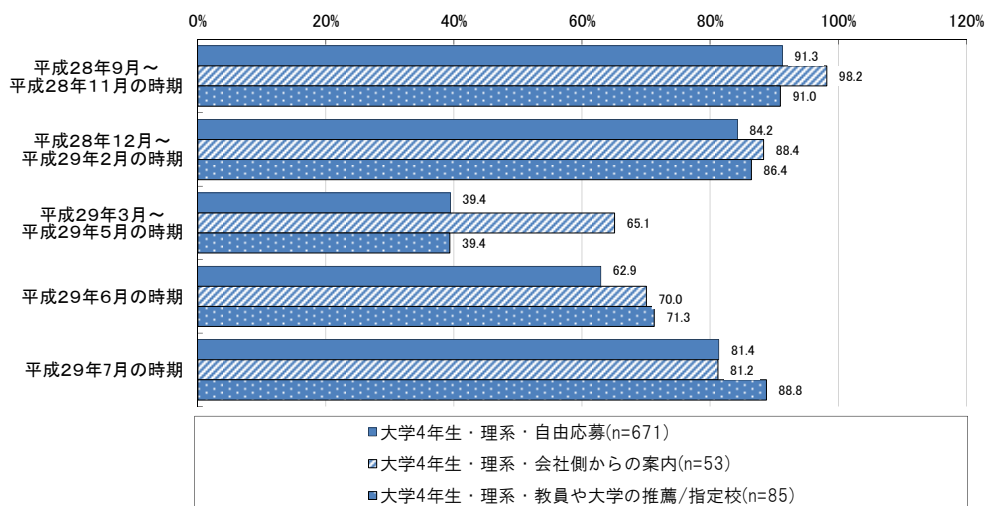


## ②就職予定の企業への入職経路別の就職活動と学修時間確保の状況

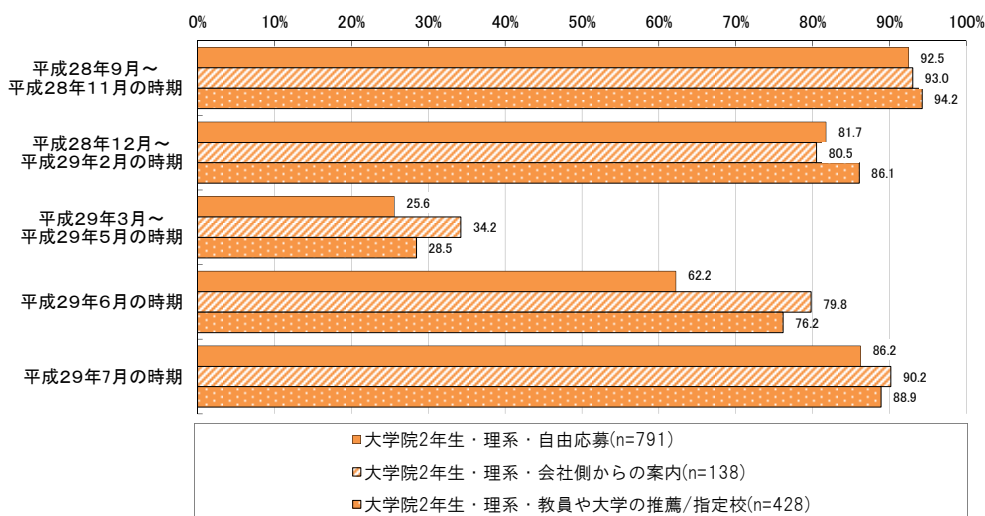
入職経路に関する回答状況をふまえ、理系の学生について、就職予定の企業に関して「自由応募（WEB サイト等からのエントリー等）」であった者、「会社側からの案内（リクレーターや大学のOB／OG等）」であった者、「教員や大学の推薦／指定校」であった者の3つに分類し、それぞれの就職活動の状況等に違いがあるかについて集計した<sup>60</sup>。

就職活動と学修時間確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合に着目し、平成28年9月以降の状況を就職予定の企業への入職経路別に集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募」であった者は、他の者と比較して「学修時間が確保できた」との回答割合が低い傾向にある（図表6-2-1）。

図表 6-2-1 就職予定の企業への入職経路別、就職活動と学修時間確保の状況  
(大学4年生・理系)



(大学院2年生・理系)



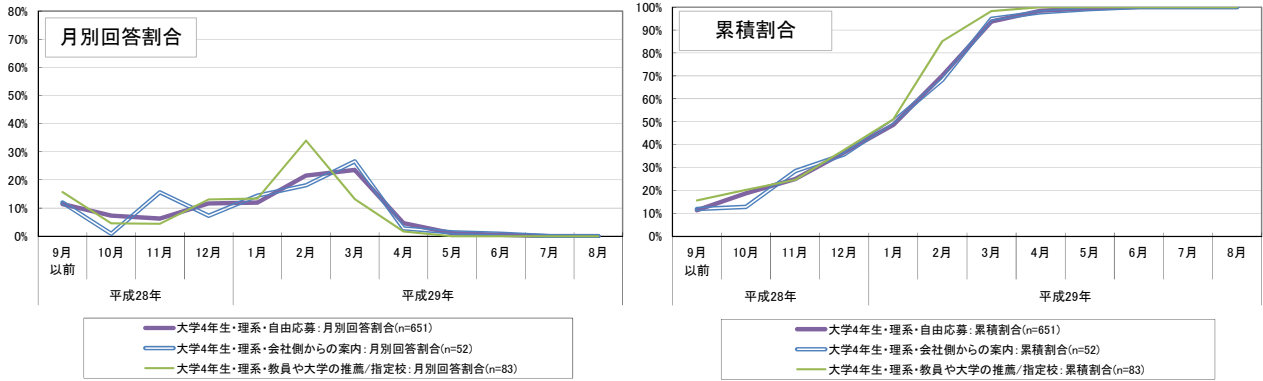
※就職活動との関係で学修時間の確保ができたかどうかをたずねた設問について、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」「就職活動に少し時間を割くことがあったが、必要な学修時間は確保できた」「就職活動に時間を割くことがあったが、一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

<sup>60</sup> 一部集計対象の度数が少なくなっている点には留意が必要である。

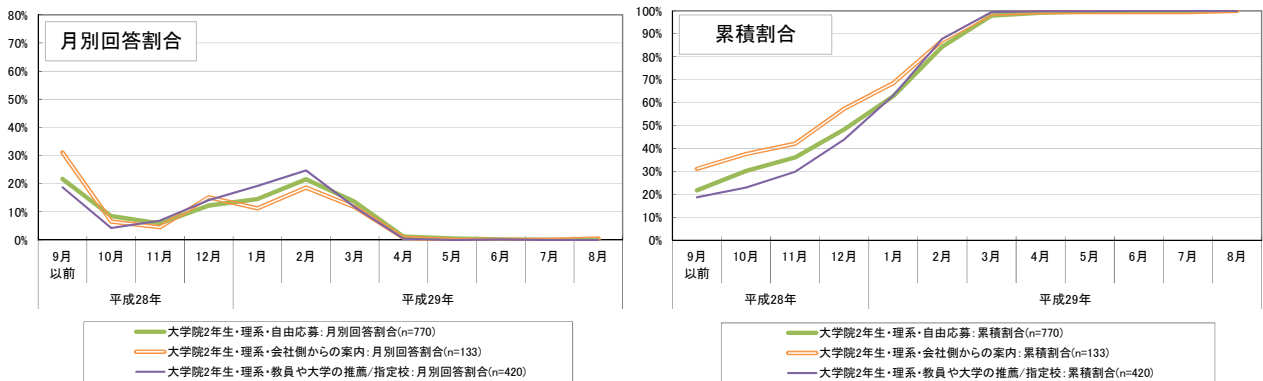
③就職予定の企業への入職経路別の業界や企業に関する分析を開始した時期

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生がいつごろから業界や企業に関する分析を開始したかをみると、特に大学院 2 年生に関し、「会社側からの案内」であった者でより早期の回答割合が高くなっている<sup>61</sup>（図表 6-3-1）。

図表 6-3-1 就職予定の企業への入職経路別、業界や企業に関する分析を開始した時期  
(大学 4 年生・理系)



(大学院 2 年生・理系)



<sup>61</sup> 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者は、ここでは集計の対象外とした。

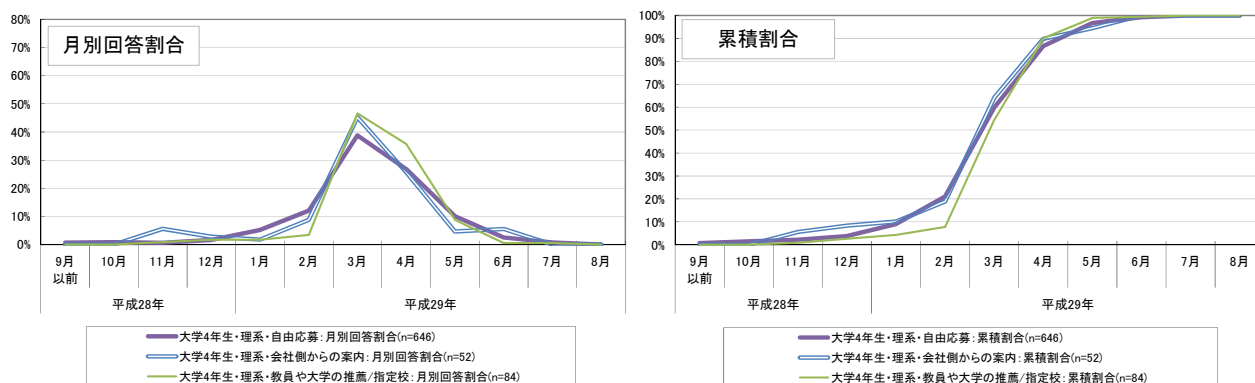
#### ④就職予定の企業への入職経路別の採用面接の実施状況

理系の学生の採用面接<sup>62</sup>の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」をそれぞれ就職予定の企業への入職経路別に集計した<sup>63</sup>。

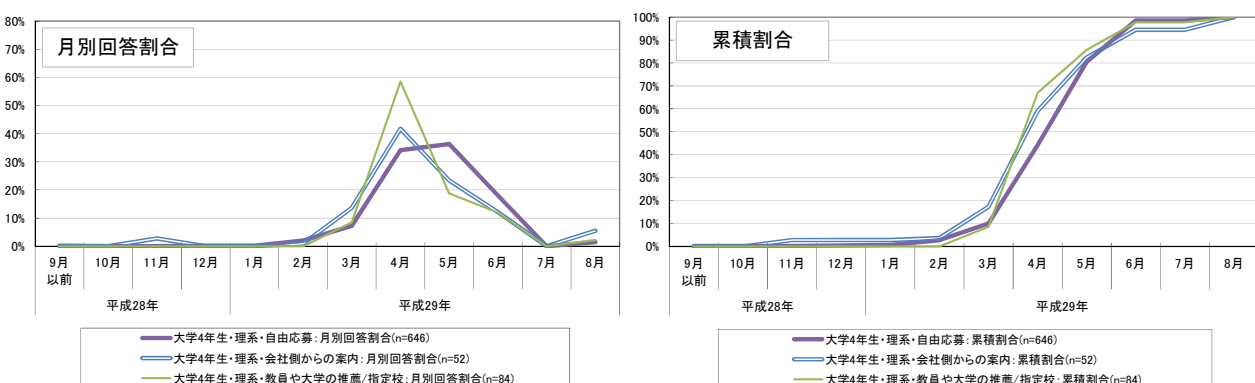
大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募」であった者では、「最初に受けた採用面接の時期」は比較的早期の回答割合が高いが、他方で、「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」はより遅い時期の回答割合が高くなっている（図表6-4-1、図表6-4-2）。

なお、大学4年生の採用面接の企業数の平均値は、「自由応募」であった学生は9.3社、「会社側からの案内」であった学生は6.4社、「教員や大学の推薦/指定校」であった学生は6.0社であった。大学院2年生では、「自由応募」であった学生は9.1社、「会社側からの案内」であった学生は5.4社、「教員や大学の推薦/指定校」であった学生は5.1社であった。

図表6-4-1 大学4年生・理系の就職予定の企業の入職経路別、採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）  
 <最初に受けた採用面接の時期>



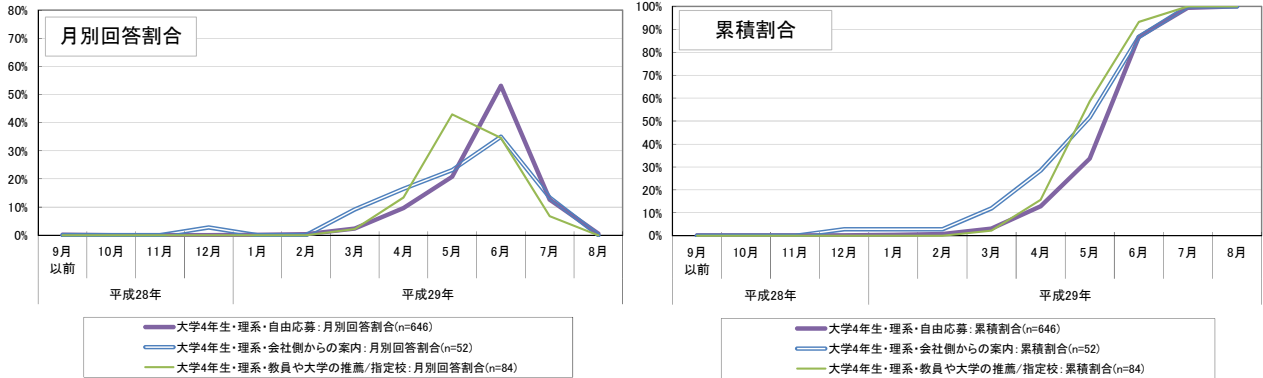
<採用面接のピーク>



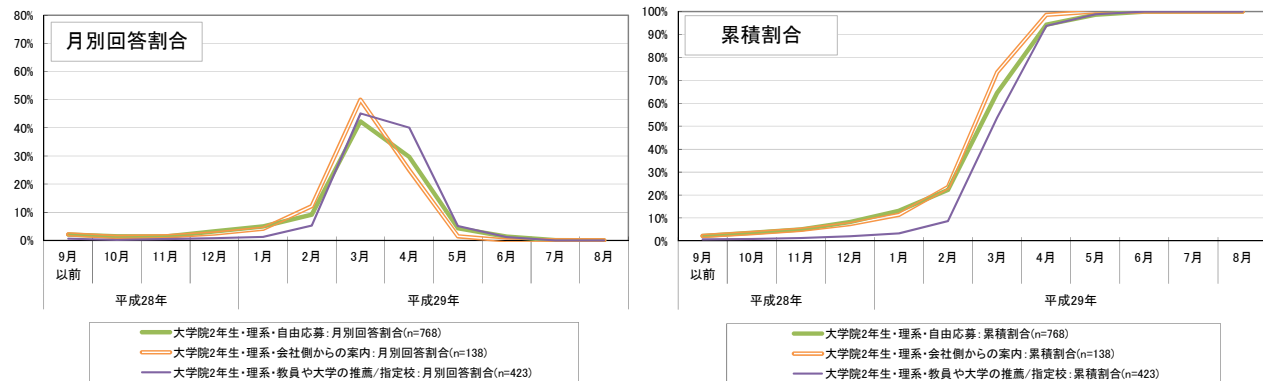
<sup>62</sup> 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。なお、ここでの「採用面接」は就職予定の企業のものに限らない。

<sup>63</sup> 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点（8月1日時点）において採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

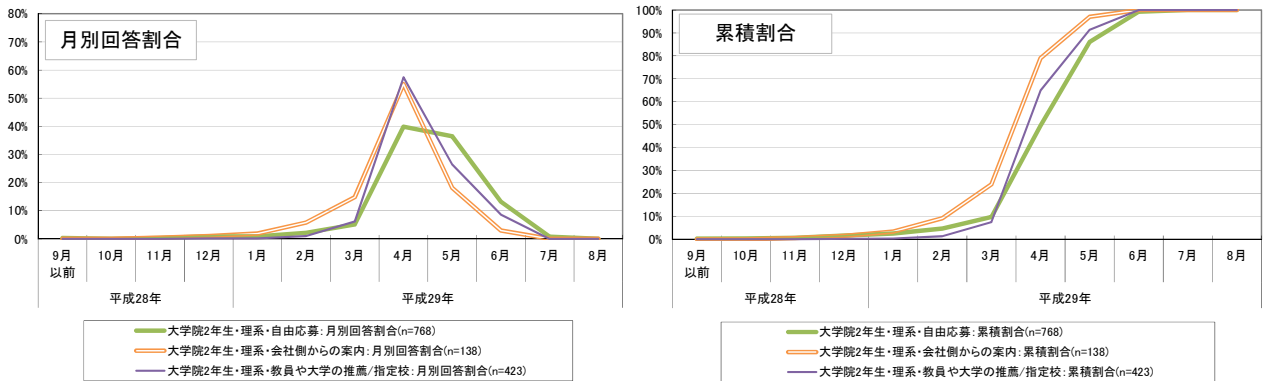
図表 6-4-1 大学4年生・理系の就職予定の企業の入職経路別、採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）  
 <最後に受けた採用面接の時期>



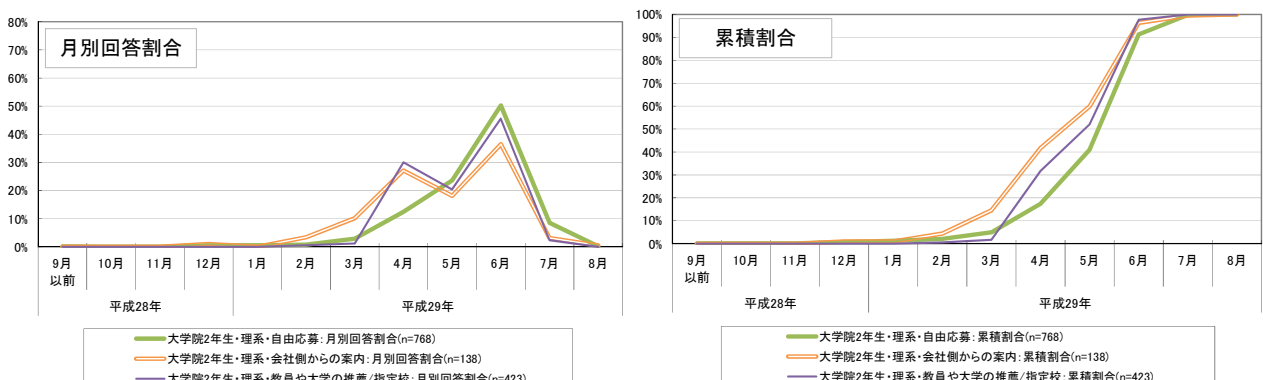
図表 6-4-2 大学院2年生・理系の就職予定の企業の入職経路別、採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）  
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



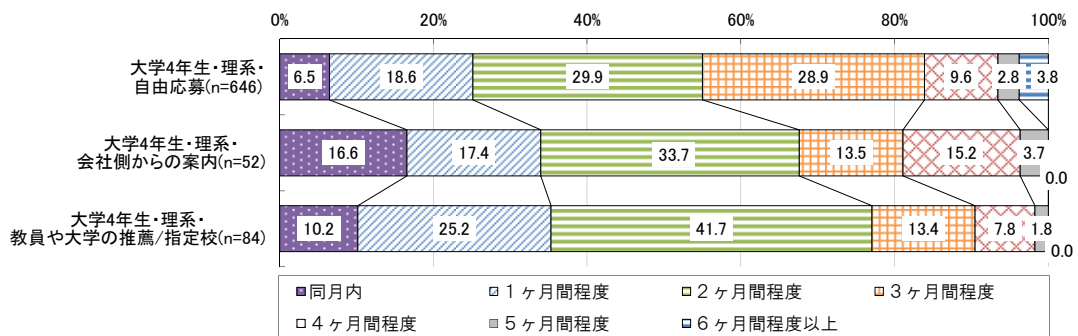
<最後に受けた採用面接の時期>



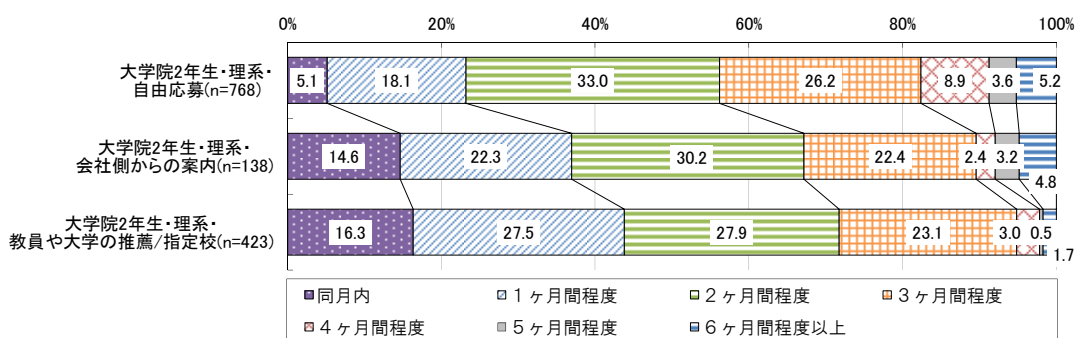
⑤就職予定の企業への入職経路別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

理系の学生の「最初に受けた採用面接の時期」<sup>64</sup>から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間<sup>65</sup>について就職予定の企業への入職経路別に集計すると<sup>66</sup>、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募」であった者のほうが、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間が長い傾向にある（図表 6-5-1）。

図表 6-5-1 就職予定の企業への入職経路別、  
最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間  
(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



<sup>64</sup> 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で得られた回答である。なお、ここでの「採用面接」は就職予定の企業のものに限らない。

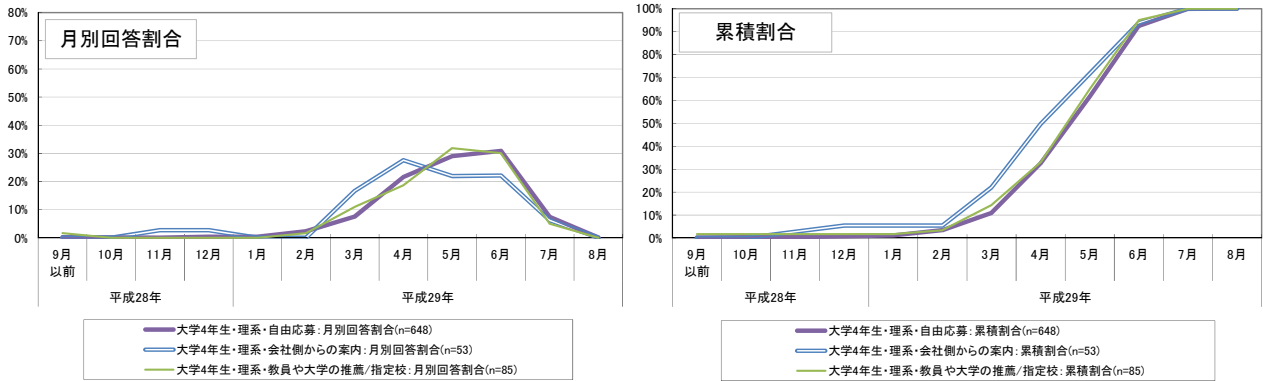
<sup>65</sup> ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

<sup>66</sup> 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点（8月1日時点）において採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

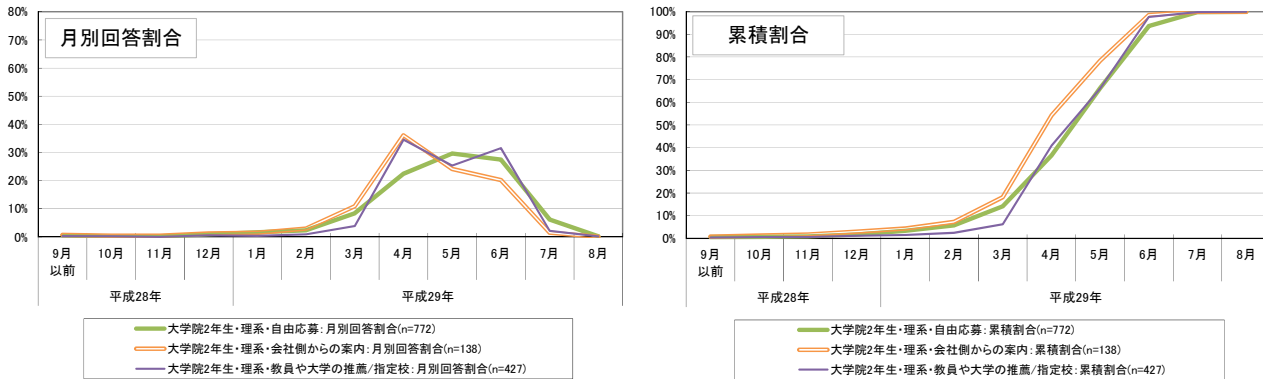
⑥就職予定の企業への入職経路別の内々定を受けた時期

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の内々定を受けた時期についてみると<sup>67</sup>、大学4年生・大学院2年生ともに、「会社側からの案内」であった者で、より早期の回答割合が高くなっている(図表 6-6-1)。

図表 6-6-1 就職予定の企業への入職経路別、内々定を受けた時期  
(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



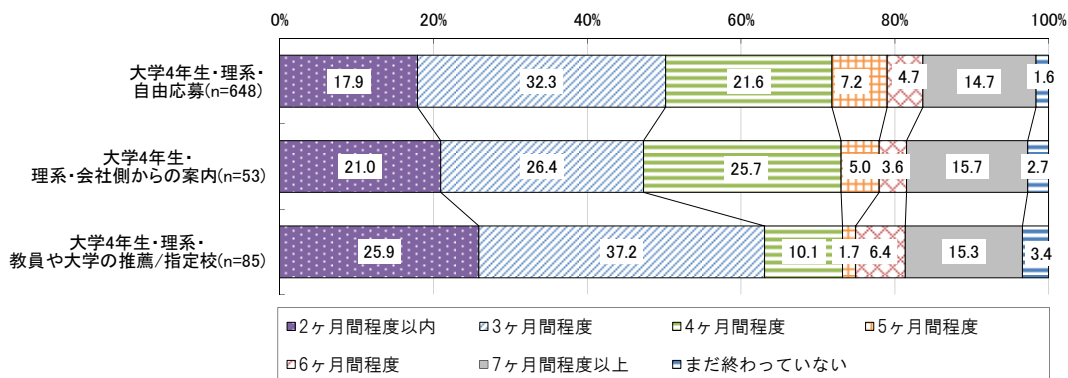
<sup>67</sup> 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。なお、ここでの「内々定」は就職予定の企業のものに限らない。



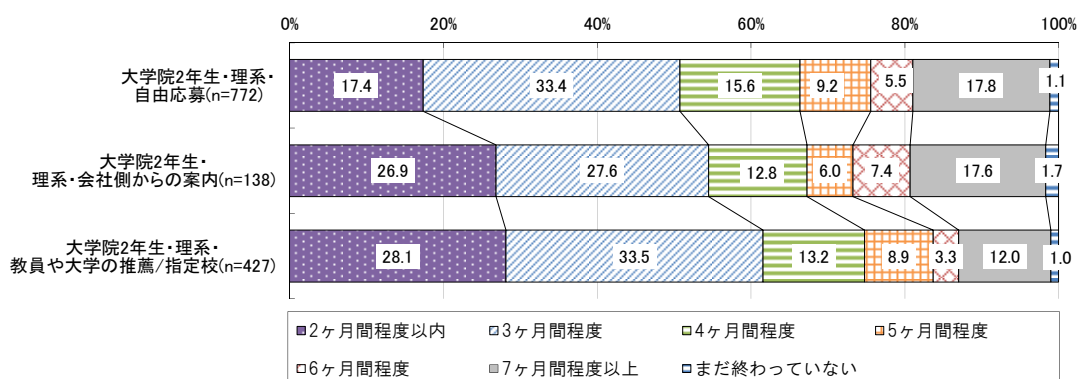
⑦就職予定の企業への入職経路別の就職活動の始まりから終わりまでの期間

理系の学生の「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について就職予定の企業への入職経路別に集計すると<sup>68</sup>、大学4年生・大学院2年生ともに、「教員や大学の推薦/指定校」であった者のほうが、就職活動の始まりから終わりまでの期間が比較的短い傾向にある<sup>69</sup> (図表 6-7-1)。

図表 6-7-1 就職予定の企業への入職経路別、就職活動の始まりから終わりまでの期間  
(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



<sup>68</sup> 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

<sup>69</sup> ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

